

# 企画書

提出者 木村知世

## 1. 企画名

『なまえの不思議 ～日本哲理姓名学と陰陽道の不思議～』

## 2. 企画概要

本絵本は、日本哲理姓名学に基づいた名前の意義や、五気(木、火、土、金、水)、陰陽道の考え方を幼児向けにわかりやすく紹介し、名前の力を伝えることを目的としています。物語を通して、名前が持つエネルギーや人間の運命に与える影響について考えさせ、子どもたちとその親が共に学べる内容です。絵本には、五気や陰陽の要素が自然や日常生活の中でどのように表れるかを描き、名前が生きる力を引き出すことをテーマにしています。

## 3. 対象読者

- 幼児(読み聞かせ対象):4～6歳
- 小学生(1人読み対象):7歳以上
- 親:子どもと一緒に学びたい親層

## 4. 目的

- 教育的意義: 名前の背後にある深い哲学と自然の法則を子どもたちに伝える。
- 親子のコミュニケーション: 名前まつわる話を通して親子で一緒に考え、学べる時間を作る。
- 心の成長: 子どもたちが自分の名前を大切にし、その意味を理解することによって、自己肯定感を高める。

## 5. 内容詳細

物語は、主人公の男の子(ヒカル)が、自分の名前に込められた意味を知る冒険に出かけるというストーリーです。彼は名前の持つ力を理解するために、自然の中で五気(木、火、土、金、水)や陰陽のエネルギーがどのように影響を与えているのかを学びます。

- 第1章: 名前の意味を知ろう  
最初に、男の子は自分の名前がどうしてつけられたのかを祖母から聞きます。名前には自然の法則(五気)が影響していることを知り、名前が持つ力に驚きます。
- 第2章: 五気の世界  
木、火、土、金、水の五つのエレメンツがどのように物語に関わるのかを見ていきます。例えば、「木」の名前を持つ子どもは、成長力にあふれている、など。
- 第3章: 陰陽道のバランス  
陰陽道の「陰」と「陽」の概念を自然のサイクルや人間の生活に取り入れて、名前がどのようにその人の性格や運命に影響を与えるかを理解します。
- 第4章: 自分の名前を大切にしよう  
最後に、男の子は自分の名前に込められた力を知り、その名前を大切にすることを誓います。彼は、名前が自分に与えるポジティブな影響を感じながら、毎日を過ごしていきます。

## 6. 特徴

- 視覚的要素: 色彩豊かなイラストで、五気や陰陽の概念を視覚的に表現し、幼児にもわかりやすくしています。
- 親子で楽しめる: 子どもが自分の名前を大切に思うきっかけを与え、親は子どもに名前の深さや意味を教えることができる。
- 教育と物語性の融合: 教育的な内容をストーリーに織り交ぜることで、学びながら楽しめる絵本。
- 幼児や小学生にとって、自己認識を深めるための素晴らしいツールとなり、親子でのコミュニケーションにも役立つ
- 名前の重要性を理解し、自分のアイデンティティを大切にすることを育てる。

この絵本は、ただの物語にとどまらず、子どもたちに人生の大切な価値観を教える手助けとなります。名前を持つことの意味を伝えることで、子どもたちが自分の力を信じ、前向きに成長できるようになることを願っています。

## サンプル原稿

### 【名前の不思議】

あるところに、ヒカルという名前の男の子がいました。

ヒカルは、自分の名前が好きでした。

でもある日、おばあちゃんがこんなことを言いました。

「ヒカル、知ってるかい？」

ヒカル、という名前は死んだおじいちゃんがつけた名前なんだ。

はじめての孫の名前だから 色々な本読んで最高の名前をつけるって。」

「えっ？ ぼくの名前？」

「そうだよ。ヒカルの名前には おじいちゃんの思いや願いがこもってるんだよ

そして、その名前にはかくされた力があるんだよ。

「ひかるの名前には、『光』の力があるんだよ。」

「光の力？」

ひかるは首をかしげました。

おばあちゃんは、優しく笑って続けました。

「名前には、ひとりひとりにぴったりの意味や力があるんだよ。そして、その力は五つの気とつながっているのさ。」

「五つの気？」

ひかるはますます不思議に思いました。

おばあちゃんは、庭の木を指さしました。

「たとえば、この木は『木の気』。成長する力があるね。」

次に、お日さまを見上げました。

「おひさまは『火の気』。明るくて元気をくれるよ。」

地面を指さして、にっこりしました。

「土は『土の気』。みんなを支える力があるね。」

近くの石を拾って見せました。

「この石は『金の気』。しっかり固くて、頼りになるんだ。」

最後に、川の水をすくいました。

「水は『水の気』。流れて、新しいものを生み出すよ。」

ひかるは、目をまるくしました。

「じゃあ、ぼくの名前はどの気なの？」

おばあちゃんは、ひかるの手を優しく握りました。

「『ひかる』はね、火の気があるよ。明るくて、人を元気にする力があるんだ。」

ひかるは、にっこりしました。

「ぼく、おひさまみたいになれるかな？」おばあちゃんはうなずきました。

「もちろん。だけどね、大切なのは、バランスなんだよ。」

ひかるは、また首をかしげました。

「バランス？」

おばあちゃんは、庭の草花を指さしました。

「火ばかり強すぎると、草は枯れてしまう。でも、火がないと寒くなってしまうね。

だから、木も水も土も金も、みんなの力を少しずつもらうことが大事なんだよ。」

ひかるは、しばらく考えてから言いました。

「ぼく、もっといろんな気を見つけてみたい！」

おばあちゃんはうれしそうに笑いました。

「それができたら、きっともっと素敵な『ひかる』になれるね。」

その日から、ひかるは名前の力を感じながら、いろんなものを観察するようになりました。

おひさまのあたたかさ、水の冷たさ、木のやさしさ——どれも、名前とつながる不思議な力。

そして、ひかるは思いました。

「名前には、ぼくのがつまっているんだ！」

こうして、ひかるは少しずつ、自分だけの輝きを見つけていくのでした。

〔以上となります。よろしくお願いいたします。〕